

2025年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
プログラムNo 2：小規模農家の生計向上のための野菜生産技術コース プログラム概要票

別紙①-2

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) 研修コース名：	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術
2) 担当者名：	篠原 美恵子（研修コース委託先業務総括：五百木 氏）
3) 期間（日数）：	2025年7月22日（火）～2025年7月25日（金）
4) 定員：	最大受入人数4人
5) 言語：	英語（実施内容を英語実施のため理解できること）※目安（TOEIC600点、TOEFL510点「CBT180点/iBT64点」、IELTS5.0程度）
6) 主な対象学生：	野菜栽培分野に興味・関心のある生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	カンボジア、ガンビア、インドネシア、ラオス、ネパール、パプアニューギニア、スリランカ、トンガ、ウズベキスタン、バヌアツ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	講義及び実習を通じて、主要な野菜の栽培技術等の基本を理解する。
-----------	---------------------------------

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要（狙い）
2	2025/7/22	火	09:15-09:30	ブリーフィング		
			09:30-12:00	鮮度保持実験（果菜類）調査・結果検討	実習	7月17日から開始したトマト・ピーマンの鮮度保持実験計測データをまとめ、結果を検討する。
			13:30-16:00	トマト採種（摘果、採種、発酵準備）	実習	トマトの採種技術を実習する。種子の抽出・発酵・乾燥の過程を学ぶ。
3	2025/7/23	水	09:30-12:00	直売実習準備（POP作成、収穫、梱包等）	実習	直売実習のためのポップ作成、包装等を前々日（22日）の検討を踏まえて準備する。
			13:00-13:30	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
			13:30-17:30	直売実習（POP作成、梱包、売場作り等）、模擬店開店（4:30～5:30）	実習	模擬店を準備・陳列し、販売実習する。
4	2025/7/24	木	09:30-12:00	野菜苗の土壌病害防除実験 2（病斑観察）	実習	病理実験室で各種の病斑の観察、顕鏡を行う
			13:30-16:00	直売実習振り返り トマト採種（種子洗浄・乾燥調整）	実習	直売実習の結果を振り返る。 発酵によりゼリー除去したトマト種子を洗浄、乾燥する。
5	2025/7/25	金	09:30-12:00	JICA公開プログラム「ちびっ子博士」 11:00-12:00（準備 09:30-11:00）	実習	JICA筑波の公開イベント「スイカ博士」の準備と実施（開始10:30）。来場した小学生にスイカの基本知識を紹介し、糖度測定を体験させる。
			13:30-16:00	個別実験管理/データ集計・統計処理	実習	研修員が自国の職場で直面している野菜栽培課題に関連する栽培実験。栽培管理やデータ計測を行う。
			16:15-17:15	報告発表		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

- ・特に朝の開始は時間厳守とします。
- ・日程については、今後の研修日程の都合・天候対応などで変更の可能性があります。
- ・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴等）を準備してください。また、講義の日でも作業が出来る服装をお願いします。
- ・日没まで作業をしていただくこともあります。

4. 学生さんへ一言

一日の実習・講義終了後には、研修員と一緒に圃場をまわってください。研修員が取り組んでいる実習について説明してくれますので、意見交換など交流を図っていただければと思います。

5. その他

講座最終日（予定）には、各受講生には、プログラム中の学びについて研修員等に対し、プレゼンテーション（英語）をしていただきます。